

NARA

NATIONAL INSTITUTE OF
HIGHER EDUCATION AND RESEARCH

国立大学法人 奈良国立大学機構
奈良教育大学／奈良女子大学





奈良教育大学と奈良女子大学は、令和4年4月に法人統合し、「奈良国立大学機構」を設立しました。

2つの大学が1つになるのではなく、奈良教育大学も奈良女子大学も存続し、それぞれ異なる強みを相互に提供しあい、これまでにない新しい国立高等教育機関として、教育・研究面の機能強化を図ります。

沿革

奈良教育大学

明治7年6月4日
教員伝習所として興福寺内に「寧楽書院」を創設

明治8年3月1日
伝習所を奈良(小学)師範学校と改称

明治21年7月31日
奈良県尋常師範学校を創設

明治31年4月1日
師範教育令により、奈良県尋常師範学校を奈良県師範学校と改称

明治38年4月1日
奈良県女子師範学校を創設(奈良県師範学校女子部を廃止)

昭和18年4月1日
師範教育令の改正により、奈良師範学校と改称

昭和19年4月1日
奈良青年師範学校と改称

昭和24年5月31日
国立学校設置法の公布により、奈良師範学校及び奈良青年師範学校を包括し、奈良学芸大学を設置

昭和41年4月1日
国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和41年法律第48号)により、奈良教育大学と改称

昭和58年4月1日
大学院教育学研究科修士課程を設置

平成16年4月1日
国立大学法人法の公布により、国立大学法人奈良教育大学を設置

平成19年4月1日
日本で初めて大学としてユネスコスクールに加盟

平成20年4月1日
大学院教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)を設置

奈良女子大学

明治41年
奈良女子高等師範学校を設置

昭和24年
奈良女子高等師範学校を包括して、奈良女子大学が設置され、その学部は文学部及び理家政学部と定められた

昭和28年
理家政学部を理学部及び家政学部に分離

昭和39年
大学院家政学研究科(修士課程)設置

昭和40年
大学院理学研究科(修士課程)設置

昭和43年
大学院文学研究科(修士課程)設置

昭和55年
大学院文学研究科(博士課程)設置

昭和56年
大学院人間文化研究科(博士課程)設置(大学院文学研究科(博士課程)を包括)

平成5年
家政学部を生活環境学部に変更

平成10年
大学院人間文化研究科を区分制博士課程に改組

平成16年
「国立大学法人奈良女子大学」が奈良女子大学を設置

令和2年
大学院人間文化研究科を大学院人間文化総合科学研究科に名称変更

令和4年
工学部を設置

令和4年4月1日 国立大学法人奈良国立大学機構 発足

役員等一覧

(令和4年4月1日現在)

役員

理事長	榊 裕 之	Sakaki Hiroyuki
大学総括理事(奈良教育大学長)	宮 下 俊 也	Miyashita Toshiya
大学総括理事(奈良女子大学長)	今 岡 春 樹	Imaoka Haruki
理 事	榎 本 剛	Enomoto Tsuyoshi
理 事 ※非常勤	西 村 い く こ	Nishimura Ikuko
監 事	三 野 博 司	Mino Hiroshi
監 事 ※非常勤	福 田 隆 一	Fukuda Ryuichi
監 事 ※非常勤	大 久 保 幸 治	Okubo Koji

経営協議会委員

[学内委員]

理事長	榊 裕 之	Sakaki Hiroyuki
大学総括理事(奈良教育大学長)	宮 下 俊 也	Miyashita Toshiya
大学総括理事(奈良女子大学長)	今 岡 春 樹	Imaoka Haruki
理 事	榎 本 剛	Enomoto Tsuyoshi
理 事 ※非常勤	西 村 い く こ	Nishimura Ikuko

[学外委員]

(あいちシンクロトロン光センター所長)	國 枝 秀 世	Kunieda Hideyo
(独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館長)	松 本 伸 之	Matsumoto Nobuyuki
(東京大学名誉教授)	松 本 洋 一 郎	Matsumoto Yoichiro
(森ビル不動産投資顧問株式会社 代表取締役社長)	村 岡 貞 男	Muraoka Sadao
(明日香村 村長)	森 川 裕 一	Morikawa Yuichi
(奈良県教育委員会 教育長)	吉 田 育 弘	Yoshida Yasuhiro

小さな大学で 大きな志を育もう

— 奈良国立大学機構発足に寄せて —

国立大学法人奈良国立大学機構理事長 榊 裕之



人口が日本の数分の一以下のオランダやスイスは、国の規模を弱みとせず、独自の工夫や国際的な連携などにより、学術文化、経済、スポーツなどで優れた存在感を示しています。企業や大学の真価も、雇用者数や財務規模では決まらず、構成員の日々の活動の独自性や質によって決まります。例えば、カリフォルニア工科大学は、教員数は三百名程ですが、千名余の大学院生を擁し、世界屈指の大学の地位を得ています。

奈良教育大学と奈良女子大学は、百年を越す伝統の中で、独自の教育と研究を続けてきました。この度、2022年4月に法人格を統合し、奈良国立大学機構の傘下の二大学として新たな出発を迎えることになりました。二大学は、教員数が百と二百ほどの小規模組織ですが、双方の教職員と学生が、互いの良さと違いを学び、支え合う関係を築くことで、夫々が育んできた魅力と特色を一段と強められるよう、新法人の初代理事長として努力する所存です。

さて、地球規模の温暖化と疫病蔓延、政治・経済の蹉跌に伴う国際的緊張や難民問題など、人類は難課題に直面し、各国の政府・組織体・個人は、総合的見地からの賢明な対応が求められています。奈良教育大学と奈良女子大学は、小規模ながら人文・社会科学系と基礎・応用科学系の諸分野をカバーする総合大学の性格を備えています。この特色を活かし、学生と教職員が分野の壁を越えた学びと相互啓発を進め、広さと深さを兼ね備えた総合的知性を磨くとともに、研究と創造の営みを一段と強め、地域や世界そして時代の要請に応えたいと考えます。

他方、千年を超す歴史の中で築かれてきた奈良の地で学生時代を過ごせることは、世界的にも稀有な幸運です。素晴らしい寺

社や仏像、生活文化や自然環境などに親しむとともに、聖徳太子や鑑真和上の時代から、国際的交流が日本の文化や学術を如何に豊かにしてきたかを認識し、21世紀の世界を生きていく上でのヒントにして欲しいと願っています。

また、師範学校と女子高等師範学校を前身とする両学は、教職員と学生が学びや教育の本質について、その考えを深めるのに絶好の場所です。岡潔先生のエデュケーション論なども参考に、教育のあるべき姿を探し求め、未来の女子教育のあり方も含め、学びや教育の質向上に努めたいと思っています。さらに、奈良の地で教育・研究・文化活動を進めている大学、高等専門学校、博物館、研究所や企業などの協力を得て、「奈良カレッジズ」と呼ぶ連携組織を築き、奈良が世界的に見てもユニークな学びと研究の場となるように努めたいと考えています。

両学に連なる全ての皆さまにはご理解とご協力を賜りますよう心からお願いいたします。

榊 裕之

SAKAKI HIROYUKI

工学博士。東京大学工学部電子工学科卒/同大工学研究科電子工学専攻博士課程修了。

専門は、半導体電子工学（ナノ構造による電子の量子制御と素子応用）。東京大学生産技術研究所教授などを経て、豊田工業大学副学長、学長を歴任。令和元年12月から日本学士院会員。令和3年6月から豊田工業大学名誉学長。令和4年4月国立大学法人奈良国立大学機構理事長就任。

幸福を持続可能にする大学へ

奈良教育大学長 宮下 俊也



奈良教育大学は、1888年（明治21年）に設置された奈良県尋常師範学校を起源とし、130余年の長きにわたって、教員養成と教育研究に努め、奈良県をはじめとする我が国の中等教育の発展に貢献してきました。

また、2007年（平成19年）には大学として全国初のユネスコスクールに認定され、それに続いて認定された全附属学校園とともに、「持続可能な開発のための教育」を推進しています。これは、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を教育の面から目指していくことでもあり、本学の最も重要な使命の一つとして位置付けています。

教育は、学びを授けたすべての子どもの幸福を願い、学びを授かったすべての子どもが幸福な社会づくりの担い手として育ってけることを期待する営みです。世界遺産に囲まれ、文化の香りが

漂うキャンパスにおいて、地域、日本、そして世界の幸福を築いていくことのできる人材育成のために、奈良教育大学はこれからも歩んでいきます。

宮下 俊也

MIYASHITA TOSHIYA

芸術学修士。教育学修士。武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業/同大学大学院音楽研究科音楽教育専攻修士/上越教育大学大学院学校教育研究科学校教育専攻（教育方法コース）修士。専門は、音楽教育学。国立大学法人奈良教育大学理事・副学長（教育担当）を経て、令和4年4月国立大学法人奈良国立大学機構大学総括理事、奈良教育大学長就任。

研究を楽しむ

奈良女子大学長 今岡 春樹



大学は研究をするところです。一見当たり前のことが実際に行われ、絶大な効果をあげたのは19世紀初頭のドイツにおいてでした。その秘密はゼミナール方式と実験室方式による研究と教育の結合でした。知識の中には狭い範囲ではあるけれど厳密な知識と広い範囲ではあるけれど厳密ではない知識があります。ともに有用ですが、ドイツで発明された研究大学では厳密な知識に重きを置くようになります。その後アメリカにおいて研究をする大学院が発明され、学部では視野を広げるようになりました。

厳密な知識に基づく製品は論理が同じですから、メーカーによらず同じ動きをします。厳密でない知識に基づく製品は経験が違いますから、メーカーによって違う動きをします。

近年の情報科学の発展により、厳密の演繹法、広さの帰納法

が共にパワフルになってきました。奈良女子大学は、パワフル時代においても研究を楽しむことのできる大学作りを目指します。

今岡 春樹

IMAOKA HARUKI

工学博士。東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修士課程修了。専門は、アパレル工学、システム科学。国立大学法人奈良女子大学生活環境学部長を経て、平成25年4月から国立大学法人奈良女子大学学長に就任。令和4年4月国立大学法人奈良国立大学機構大学総括理事、奈良女子大学長就任。

教養教育の充実・強化

両大学で開講する教養科目を両大学の学生が履修できるよう共通化します。

奈良教育大学と奈良女子大学の学生が、相互の教養科目を履修できるよう、両大学の教養科目の共通化を段階的に進め学びの幅を広げます。これにより、両大学の学生の教養と創造性を高めるとともに、奈良に対する知識、異文化・多様性についての理解、持続可能な社会づくりの担い手としてのSDGsやESDに関わる知識と行動力等を培います。この取組みは、複数大学設置法人傘下の大学間に認められる連携開設科目制度の下で行うものです。

令和4年度 連携開設科目	
奈良教育大学提供	奈良女子大学提供
『フィールドワークで地域に学ぶ』 河本大地	『政治学』 安善姫
『コミュニケーションワークショップ』 中山留美子	『ジェンダー生理学』 島本太香子
『仮名書道と実用書』 北山聡佳	『生活と色彩』 北口紗織
『奈良と文学』 米田猛	『日本の言語と文学』 尾山慎
『Science Lesson in English』 森本弘一	『生活の中の物理学』 吉岡英生・蜂谷崇
『教師力ケースメソッド』 柿本篤子	『人体科学』 芝崎学・中田大貴・大高千明
	『西洋の美と芸術』 宇埜直子
	『国際関係論』 戸田真紀子
	『ベトナムの言語と文化(A)』 平野綾香
	『数学入門』 小林毅
	『固体地球環境学入門』 金幸隆
	『科学史』 杉本舞

TOPICS

『奈良と教育ーここはどこ？ 私はだれ？ー』

令和元年度より、両大学学生が共に学ぶ教養科目『奈良と教育ーここはどこ？ 私は誰？ー』を開設しました。これは、「教養科目の共通化」に向けた第一歩です。全15回の授業の中には、奈良国立博物館や奈良文化財研究所でのフィールドワーク、明日香村村長を招いての講義などが組み込まれ、両大学学生間での対話的な学びやアクティブ・ラーニング、奈良についての深い学びが実現しています。

開講実績

令和元年度	教育大38名	女子大14名	計52名
令和2年度	教育大15名	女子大9名	計24名
令和3年度	教育大12名	女子大13名	計25名



教養教育ウィーク 奈良カレッジズ学問祭

諸学に触れ、知る喜びと考える愉しみを体感し、
知的欲求の礎を築く祝祭的な知の1週間

この学問祭は、両大学の教員のみならず、奈良カレッジズ諸機関や、奈良にゆかりのある方々等を講師に招き、一話完結型の講義を、大学祭の模擬店や映画祭のように散りばめた一週間です。

学生は、興味のあるものを自由に複数選んで受講することにより、教養科目「諸学への誘い^{いざな}」の単位が取得できます。

また、学部学生のみならず、両大学の大学院生や教職員も聴講可能です。講師や受講生が交流し、教養を深めるとともに、知を繋ぎ、新たな知を創出する場として期待するものです。



令和4年度

講師・テーマ

榊 裕之（奈良国立大学機構 理事長）
学力・研究力・創造力について考えるー自らの研究体験を基にー

井上洋一（奈良国立博物館 館長）
『自らの文化が生き続ける限り、その国は生きながらえる』

本中 真（奈良文化財研究所 所長）
世界遺産ー世界のスタンダードと多様性ー

塩崎一裕（奈良先端科学技術大学院大学 学長）
「スーパーモデル」としての酵母

井上邦子（奈良教育大学 准教授）
奈良の伝統相撲考ー“すもう”という名の舞ー

北山聡佳（奈良教育大学 准教授）
文字と白と黒で描くー仮名書道の造形美ー

全 有耳（奈良教育大学 教授）
子どもの支援ニーズの多様化ー小児医療の視点からー

中澤静男（奈良教育大学 教授）
SDGs・ESD入門ー奈良の歴史文化遺産も題材にしつつー

信川正順（奈良教育大学 准教授）
天の川銀河中心の超巨大ブラックホール

篠田正人（奈良女子大学 教授）
ランダムとはどういうことか

鈴木広光（奈良女子大学 教授）
古い書物に触れ、観察し、考える

中田大貴（奈良女子大学 教授）
運動イメージと運動スキル

長谷圭城（奈良女子大学 教授）
現代アートへの誘い

水垣源太郎（奈良女子大学 教授）
つながり・コネ・ネットワークー社会学の視点からー



両大学による 教職課程の共同運用に向けて



教員志望の両大学学生に対し、両学共同で教職科目を開講することを目指しています。それにより、奈良教育大学の強みである教員養成教育を奈良女子大学学生に、奈良女子大学の強みである教科内容(教科専門)を奈良教育大学学生に提供することが可能となります。また、両大学の「重なり」を解消し、効率化を図ることが期待できます。

教職課程の共同運用については、3つのアプローチがあります。両大学では、学生たちの受講ニーズや授業実施の持続可能性に鑑みながら、着実に取り組みを進めていきます。

全国の教職課程でもまだ前例の少ない先駆的な取り組みです。両大学が持っているリソースを最大限に活用し、創造的に展開していきます。ご期待ください。

教職科目の相互履修(単位互換)

奈良教育大学と奈良女子大学は、それぞれに文部科学大臣から教職課程の認定を受け、教職課程の運営を行っています。教職科目の相互履修とは、それぞれが開設している教職科目について、両大学の学生が相互に履修することができる仕組みです。令和4年度は、「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を扱う「教育社会学」で相互履修を展開していく予定です。



連携開設科目

教職課程は、原則として各大学の「学科等」という単位で運営することになっており、教職課程ごとに必要な科目の開設を行うことになっていますが、教職課程に関する各種の規則等の改正により、複数の教職課程で連携した科目の開設ができるようになりました。両大学では、この新しい仕組みを活用して、教職科目の一部において連携開設科目を開設していくことを計画しています。連携開設科目の設置によって、両大学が持っている人的、物的リソースを集中させることで、より質の高い教職科目が提供できることを期待しています。



連携教職課程

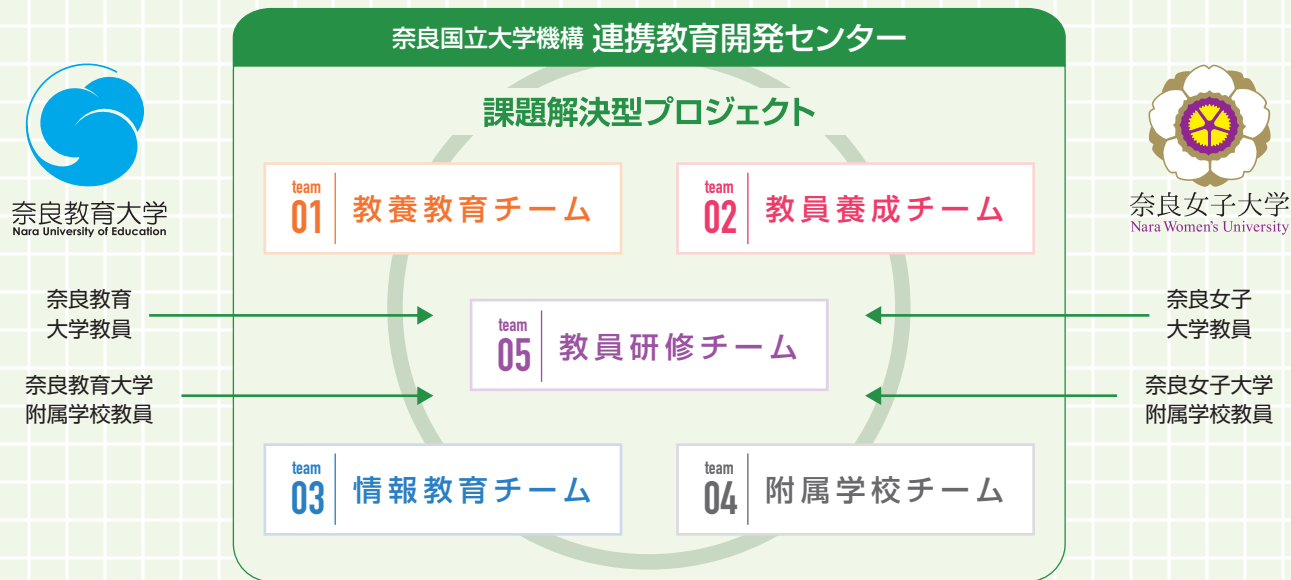
連携開設科目をさらに推し進め、教職課程そのものを複数大学等で運営していく仕組みが連携教職課程です。奈良教育大学教育学部は「教員養成を主たる目的とする学科等」ですので、ほとんどの免許種の教職課程を設置していますが、一方で奈良女子大学文学部・理学部・生活環境学部は、一般大学として、いくつかの種類の免許種にかかわる教職課程を設置しています。両大学が協働して、連携教職課程を設置することができれば、さらに効率的、効果的な教職課程を運営できるだけでなく、人口減少社会にあって持続発展的に教職課程を展開していくこともできるようになります。両大学では、中長期的な視点に立って、連携教職課程の設置について検討を重ねていきます。



新設 連携教育開発センター

次世代の社会創造に資する
「独創的、個性的に物事を創り上げていく力」を育成するために

連携教育開発センターは、奈良教育大学及び奈良女子大学における教養教育、教員養成教育、ICTを含む情報教育、附属学校園における教育、及び現職教員研修それぞれに関わる事業や研究開発を先導し、高等教育の改革のみならず、教育全体の改革に寄与することを目的として、2つの大学が協働して運営するセンターです。



team 01 教養教育チーム

両学に開講されている教養科目(一部科目を除く)の共通化、「教養教育ウィーク～奈良カレッジズ学問祭～」について企画・立案します。

team 02 教員養成チーム

教員志望の両学学生に対し、両学共同で教職科目を開講することについて企画・立案します。

team 03 情報教育チーム

奈良女子大学工学部や奈良教育大学の情報教育のリソースを用い、Society5.0やGIGAスクールに対応できる情報活用能力を両大学学生に培うとともに、これからの教員に求められる「理数・工学・情報に強い教員」の育成について企画・立案します。

team 04 附属学校チーム

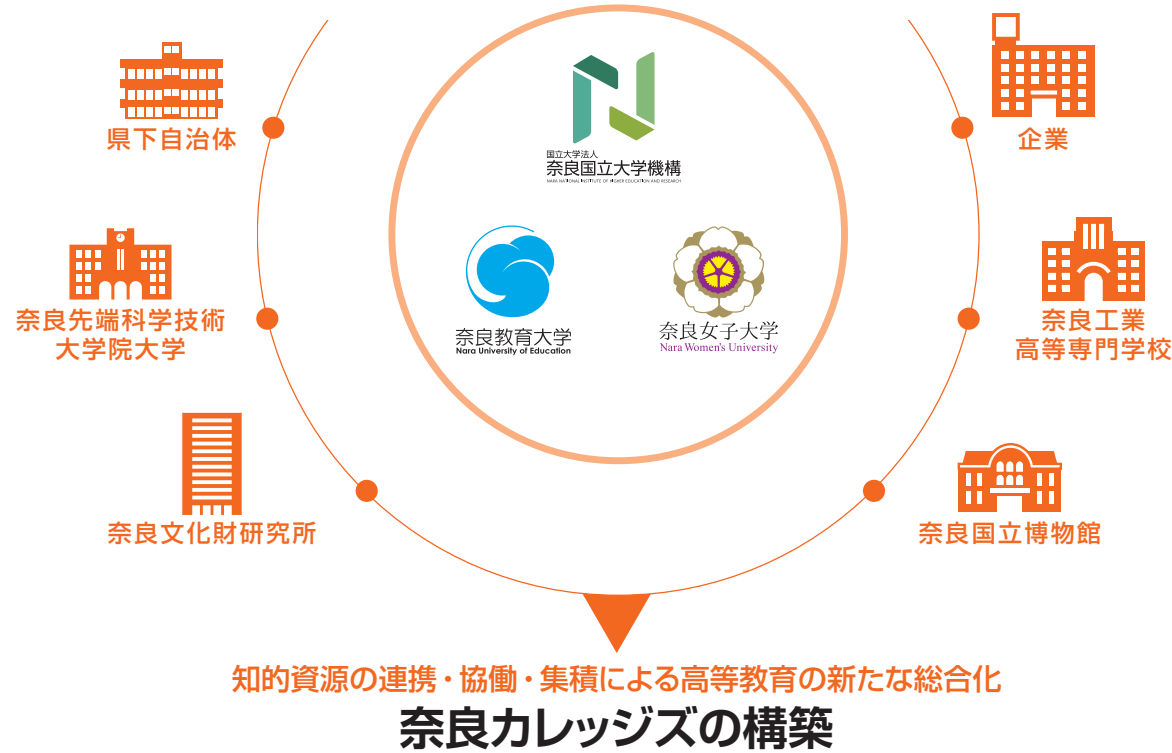
両大学6附属学校園が協働・連携し、それぞれの附属学校教育や教員養成教育の改善を図るとともに、全国や世界における初等中等教育の改善・発展に資する共同研究について企画・立案します。

team 05 教員研修チーム

各プロジェクトチームが結集し、先駆的な教育実践モデルの開発や学校支援等により、奈良県や全国の現職教員研修に貢献することについて企画・立案します。

奈良カレッジズ構想

法人統合によるスケールメリット及びシナジー効果を活かして、奈良県及び関西文化学術研究都市等の近隣地域に位置する研究機関、教育機関、企業、自治体等との連携・協働体制を構築し、それぞれの強みや人的・物的資源の交流による教育研究インフラの強化を図る試みが奈良カレッジズ構想です。



TOPICS

奈良県内文部科学省4機関 (奈良教育大学、奈良女子大学、奈良国立博物館及び奈良文化財研究所) における連携・協力に関する協定書の締結 (令和元年5月20日)

令和元年5月20日に、奈良教育大学、奈良女子大学、奈良国立博物館及び奈良文化財研究所は、連携・協力に関する協定書を締結しました。

この協定は、日本文化発祥の地である奈良において、仏教美術や文化財を中心に、調査・研究・収集・展示等を行っている奈良国立博物館及び奈良文化財研究所と、奈良教育大学及び奈良女子大学が連携して、奈良でこそ学ぶことができる教育の枠組みを構築し、未来社会を牽引する人材を地域・全国に輩出することを目的としています。将来的には、4機関以外の他機関との連携・協力を推進しつつ、奈良県内に教育研究の学問の府を創成することを目標としています。

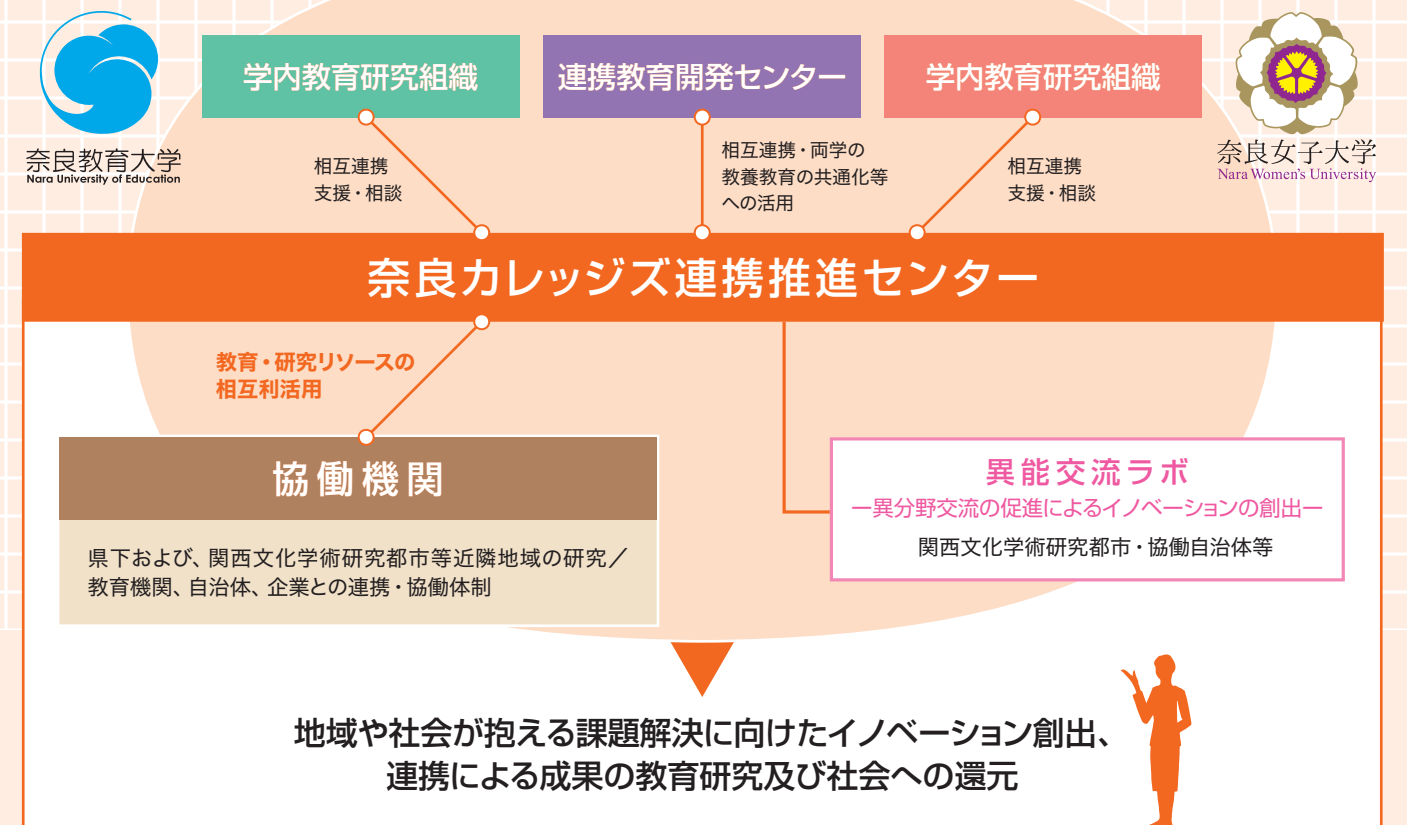
奈良県に立地する歴史ある国立の4機関が連携協力することにより、奈良県内及び奈良から全国に発信する高等教育・研究の充実・発展に大いに寄与するものと考えています。



新設 奈良カレッジズ連携推進センター

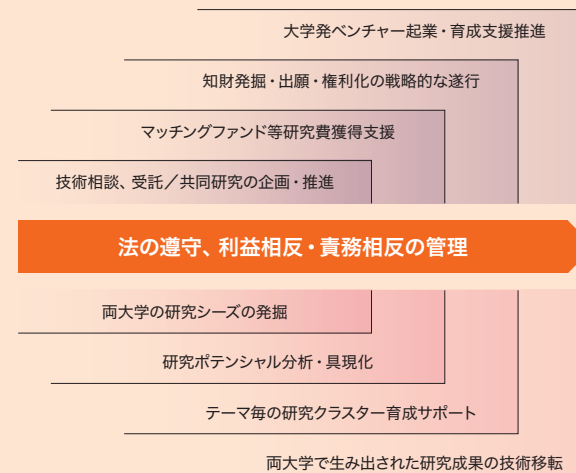
奈良カレッジズ連携推進センターは、奈良カレッジズ構想を推進し、地域や社会が抱える課題解決に向けたイノベーション創出や、連携による成果の教育研究及び社会への還元に取り組むことを目的とするセンターです。

異分野交流・産学官連携・地域連携の促進



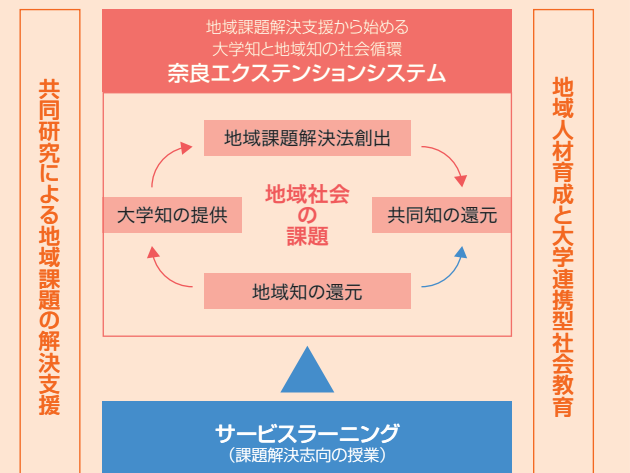
産学官連携推進部門

産学官連携の総合コーディネート



地域連携推進部門

地域課題研究と社会教育の循環システム支援/コーディネート



奈良の地で 学び創造、学び発信。



奈良教育大学は、学芸の理論とその応用とを教授研究し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図ることを目的としています。

教育学部 学校教育教員養成課程	教育発達専攻	教育学専修 心理学専修 幼年教育専修 特別支援教育専修
	教科教育専攻	国語教育専修 社会科教育専修 数学教育専修 理科教育専修 音楽教育専修 美術教育専修 保健体育専修 家庭科教育専修 技術教育専修 英語教育専修
	伝統文化教育専攻	書道教育専修 文化遺産教育専修
専門職学位課程(教職大学院) 大学院教育学研究科 修士課程	教職開発専攻	学校教育マネジメントコース - 学校組織マネジメント領域 - 学級づくり・特別活動マネジメント領域 - ESDマネジメント領域 - 教育情報化マネジメント領域
	教育発達支援コース	- 生徒指導・学校カウンセリング領域 - 幼年教育領域 - インクルーシブ教育領域
	教科教育コース	- 言語・社会科学領域(国語、社会科、英語、小学校外国語) - 理数・生活科学領域(算数・数学、理科、技術、家庭科) - 芸術・保健体育領域(音楽、美術、書道、保健体育)
	伝統文化教育・国際理解教育専攻	伝統文化(書道を含む)教育・国際理解教育専修

奈良教育大学の3つの柱

1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究
2. 持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成
3. 教員養成と教員研修の融合

奈良教育大学の特色

大学として、全国初のユネスコスクール

■「奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」に基づき、3つの附属学校園を含め、「誰一人取り残さない」教育活動を目指しています。

教育による地域・社会貢献

■インクルーシブ教育、理数・情報教育、山間部の学校教育、教員を志す高校生への教育等、地域・社会のニーズに対する支援を行っています。

■各種公開講座等によって、開かれた教育大学として地域の人々の学びを支援しています。

ESD(持続可能な開発のための教育)を核とした教員養成・教員研修

■「持続可能な社会の創り手」の育成に寄与できる実践的指導力をもった教員の養成・研修を行っています。

■ESDの推進拠点として、世界、日本、地域のESD推進を牽引し、教育の立場からSDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指しています。



Topics | 2022年4月 ESD・SDGsセンターを新設します

SDGs(持続可能な開発目標)の達成に関わるESD(持続可能な開発のための教育)の推進についての研究開発及び実践を行うことにより、「持続可能な社会の創り手」の育成に寄与できる実践的指導力をもった教員の養成、学校支援及び地域支援に寄与することを目的としたセンターです。



Topics | 2022年4月 大学院が生まれ変わります

新専門職学位課程(教職大学院)

- 「持続可能な開発のための教育(ESD)」として、「持続可能な社会の創り手」を育てる高度な実践力を培い、教育の面からSDGsの達成に貢献できる教員を育成します。
- 研究の場を保証し、高い専門性と研究力をもつ教員を育成します。
- ICTに関わる高度な実践力を培い、GIGAスクール構想の実現に貢献できる教員を育成します。
- 「学校教育マネジメント」「教育発達支援」「教科教育」の各コースを設け、院生各自がもつ「身に付けたい資質・能力」を培うカリキュラムと多彩な指導体制を提供します。
- 「課題探求実習」(1回生次)と「課題解決実習」(2回生次)により、確かな実践力と、教職に対する自信・誇りを培います。
- 現職教員に対しては、学校や地域、教育行政において指導的役割を果たすことのできる高度な実践力を育成します。



新修士課程

- 文化遺産に囲まれた環境を活かし、留学生と日本人学生とがともに学び合い、多文化共生社会の実現やSDGsの達成に貢献できる人材を育成します。
- 書道を含む伝統文化の継承と発展に貢献する教育・研究を行います。
- 多文化共生社会の創造に貢献する国際理解教育についての教育・研究を行います。





凜としてほがらかに、
輝ける女性リーダーへ。



4学部1研究科を擁する女子の最高教育機関

文学部

▷人文社会学科 ▷言語文化学科 ▷人間科学科

理学部

▷数物科学科 ▷化学生物環境学科

生活環境学部

▷食物栄養学科 ▷心身健康学科
▷住環境学科 ▷文化情報学科

工学部

▷工学科

大学院人間文化総合科学研究科

博士前期課程 ▷人文社会学専攻 ▷言語文化学専攻
▷人間科学専攻

▷数物科学専攻 ▷化学生物環境学専攻

▷食物栄養学専攻 ▷心身健康学専攻
▷情報衣環境学専攻 ▷住環境学専攻 ▷生活文化学専攻

▷生活工学共同専攻

博士後期課程 ▷人文科学専攻 ▷生活環境科学専攻
▷自然科学専攻 ▷生活工学共同専攻

奈良女子大学の4つの基本理念

理念1 男女共同参画社会をリードする人材の育成 - 女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ -

理念2 教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化

理念3 高度な基礎研究と学際研究の追究

理念4 開かれた大学 - 国際交流の推進と地域・社会への貢献 -

奈良女子大学の特色

グローバルに活躍する人材育成

教育研究のグローバル化の推進と地方創生

- 海外留学の推進 (マンツーマン英語レッスン・インターンシップ研修)
- 国際空間「CotoQue (コトーク)」
- 大和・紀伊半島学研究所

ダイバーシティ

奈良から、関西から、女性研究者の支援を牽引

- 女性研究者の研究力向上
- 子育て支援システム
- 共同研究スタートアップ支援制度

理工系女性リーダーの育成

文理を越えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成

- 集まれ! 理系女子
- グローバル理系女性育成国際サマーキャンプ (SCORE)
- 中等教育改革プロジェクト



Topics | 日本の女子大学史上初 2022年4月 工学部工学科開設

学べる2分野4領域



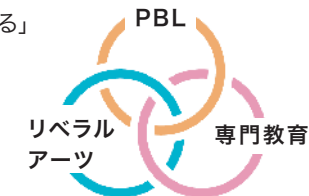
企業や研究所と連携

企業や研究所とのコラボ講義で新鋭の技術や課題を学ぶ



主体性を育むカリキュラム

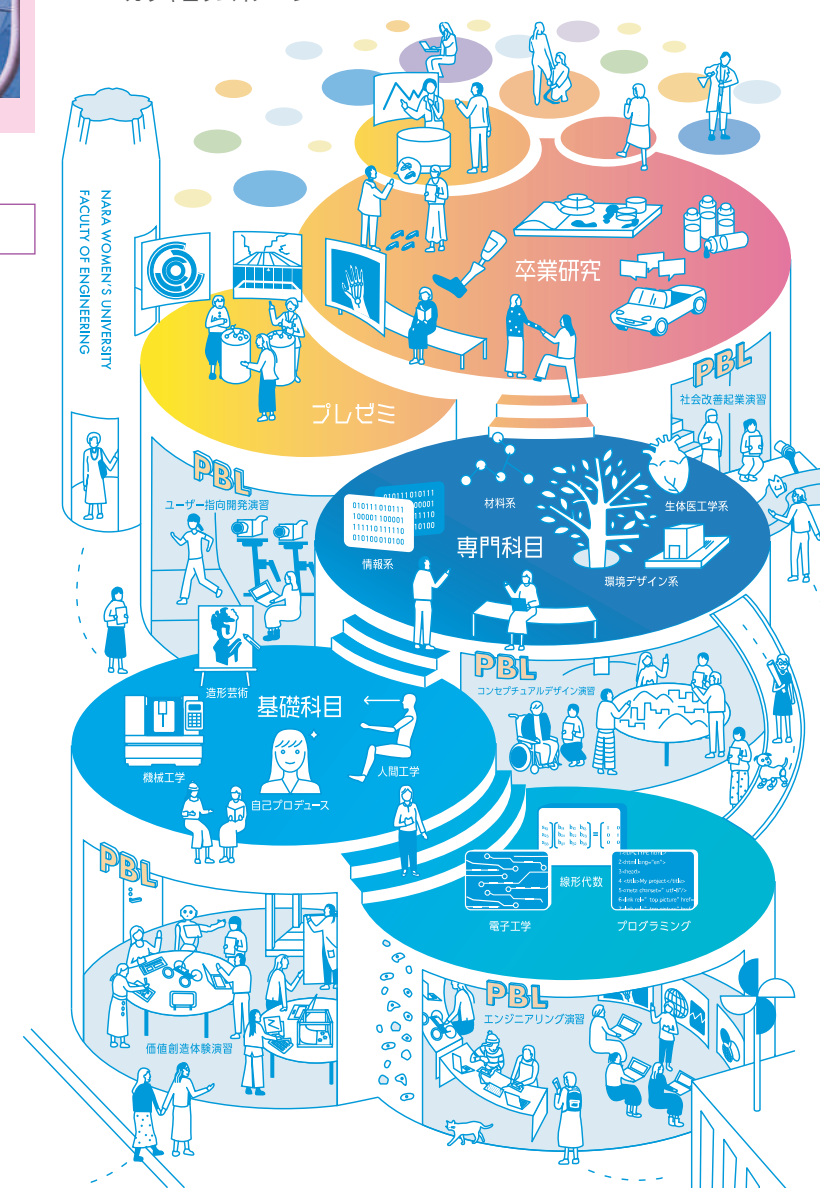
ワクワクを軸とした「知る、つくる」の循環でクリエイティブな学び



自由な履修制度

創造的、実践的、横断的。プレイフルな履修制度で自分だけの専門性を形成。

カリキュラムイメージ





国立大学法人 奈良国立大学機構

〒630-8506 奈良市北魚屋東町（奈良女子大学内） TEL.0742-20-3204
<https://www.nara-ni.ac.jp/>

ロゴマーク

国立大学法人奈良国立大学機構のロゴマークは、奈良教育大学の「N」、奈良女子大学の「N」をモチーフに、堅牢に立つ両端の柱と、双方が寄り添う形状で、それぞれの力・知恵を結集するシナジー効果を表現したマークです。カラーは新しい芽吹きイメージ、若草山をはじめとする奈良の緑のイメージをもとに、「ふかみどり」「うすもえぎ」「ひすい」「もえぎ」と日本の伝統色を使用しています。



〒630-8528 奈良市高畑町 TEL: 0742-27-9105
<https://www.nara-edu.ac.jp/>

教育学部

大学院 教育学研究科 教職開発専攻
伝統文化教育・国際理解教育専攻



●近鉄奈良駅もしくはJR奈良駅より市内循環バス 奈良交通バス 約10分「高畑町」下車すぐ



〒630-8506 奈良市北魚屋東町 TEL: 0742-20-3204
<http://www.nara-wu.ac.jp>

文学部

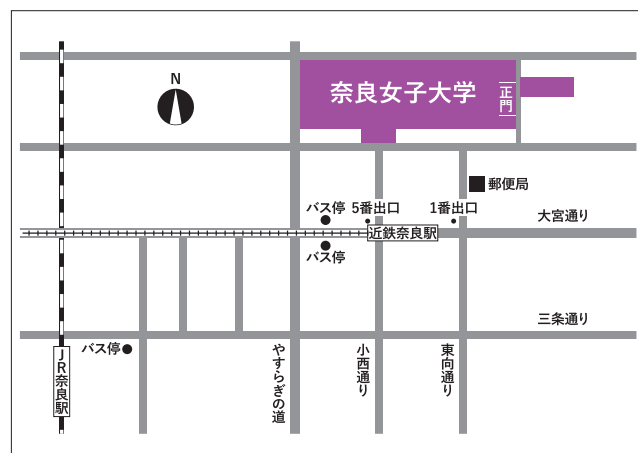
理学部

生活環境学部

工学部

大学院 人間文化総合科学研究科

博士前期課程 博士後期課程



●徒歩 近鉄奈良駅改札1番出口より徒歩6分/JR奈良駅より徒歩15分
●JR奈良駅より市内循環バス 奈良交通バス「近鉄奈良駅前」下車、徒歩7分